



うちどく

家族いっしょに、よみたい本

家読おすすめ絵本10

はじめの一步号

2020年10月発行 (通巻1号)

家読とは？

「家読(うちどく)」は、「家庭読書」の略語で「家族ふれあい読書」を意味し、「家族みんなで読書をすることで家族のコミュニケーションを深める」ことを目的にした読書運動です。

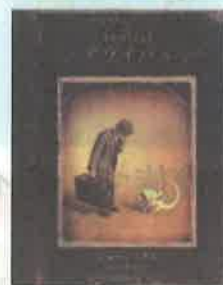
図書館からぜひ、ご家族で楽しんでほしい本をリストアップしてみました。

●字のない絵本で読書！？



「旅の絵本1~9」作 安野光雅

どこかの国に旅人が来たようです。旅人の進む周辺を見渡すと、懐かしいような風景が広がっています。みんなが知っている「おおきなななぶ」の物語や数々の名画等を見つけながら、絵本で旅を試みましょう。



「アライバル」

作 ショーン・タン

ある家族が移民として異国の地へ渡るお話です。言葉の通じない土地へ居を移すまでの不安や緊張感、異なる文化への戸惑いなどが緻密な絵で描写されています。短編映画を見終えたような読後感を楽しんで。

「ぞうくんとりすちゃん」

作 藤子・F・不二雄

「ドラえもん」は出てきません。とっても仲良しな「ぞうくん」と「りすちゃん」のおしゃべりが聞こえてくるようです。家族で会話がはずむ本です。



●オニはわるものかな？

「泣いた赤おに」

作 浜田広介

青鬼からの最後の手紙…。そりゃ、泣くよね赤鬼…。お話は終わるけど、その後赤鬼は、どうしたらいいのかな。青鬼も他に方法は無かったのかしら。自分が登場人物の一人だったら、とあれこれ考えてほしい名作絵本です。



「ソメコとオニ」 作 斉藤隆介

絵 滝平二郎

「花さき山」「モチモチの木」「ベロ出しチョンマ」でおなじみの「滝平二郎」さんの絵本は、どれも切り絵が印象的で、なんとなく避けてきた方は、本書からトライしてみてください。かわいいソメコに大爆笑!



●ユーモア絵本なら、これ!



「じごくのそうべえ」

作 たじまゆきひこ
落語が原作ですから、面白さは間違いない!関西弁のテンポのいい文章は、ぜひ声に出して読んでいただきたい本です。

●「ともだち」だから



「はせがわくんきらいや」

作 長谷川集平
主人公の男の子の、ぶっきらぼうな態度から、長谷川くんへの歯がゆい思いや、いたわりの気持ちがしっかりと伝わってきます。「あとがき」で森永ヒ素ミルク中毒事件の解説が掲載されています。

●戦争と平和を考える



「字のないはがき」原作 向田邦子

文 角田光代 絵 西加奈子
有名な脚本家「向田邦子」さんの家族の話です。
幼い妹がたったひとりで、疎開先に行き暮らさなければならなかった状況や、いつもは厳しいお父さんが見せた姿から、戦争という歴史を家族で語り合ってみてほしい実話です。

●コロコロほっこりあったまる



「びんすけとひよこ」

文 桜井道子
絵 奈良坂智子
絶版で、もう入手できない絵本です。

ノラネコのびんすけが出会ったまいごのひよこ。「びんすけ」が自分より小さく、弱い存在の「ひよこ」を守るべき対象として、愛おしく思う気持ちが切ない物語です。見返しの屋根の上にたえずむ「びんすけ」、中扉の丸くなって寝ている「びんすけ」の絵から、ひとりぼっちのノラネコの暮らしを思い浮かべてほしい一冊です。

●家族で、ワイワイ話しながら読んで!



「ねえ、どれがいい?」 作 ジョン・バーニンガム
ジャムまみれ?みずびたし?ドロだらけ?どれがいい?...と、とんでもない究極の選択が次々と出てきます。大笑いしながら、選んでください。選んだ理由を語り合っ、楽しいひとときが過ごしてほしいです。続編の「またまたどれがいい?」もどうぞ。

面白かったドラマや映画の感動したシーンは、自分自身で噛みしめるだけでなく、同じ思いを共有出来たら、もっと楽しい。話題が盛り上がり、自分は気付かなかっただけれど、この人は、ちゃんと見ていたんだな〜と感心したり...という経験は、誰にでもあると思います。

読書体験も一緒です。家族で同じ本を読んで感動を共有してください。まずは、絵本から。絵本は、絵の表現力と、洗練された文章で構成された総合芸術です。絵本を読むことで、自然に読解力や言語力、豊かな想像力が身につきます。ただ教育のために絵本を利用するというものではありません。想像力を育むと、人としての視野がぐんと拡大し、人の気持ちを考え、思いやり、痛みのわかる大人へと成長していきます。でも、毎日忙しい中、読書の時間をつくるのは、たいへんなことと思います。絵本なら5分~15分です。毎日読めなくてもいいんです。楽しいから読む。読んで「おもしろかった!」で上等です。誰にだって読書が拘束時間だと楽しくありません。非拘束時間として絵本を楽しんでください。